



Super Global Elementary school 五木東 SGEたより

平成30年6月20日(水)発行



第2回目のGC養成講座(グローバル・コミュニケーター養成講座)は、身近な球磨人吉にいらっしゃるグローバルな方をお招きしました。

錦町に在住のピアニスト(ピアノ教室講師)石田親子先生に「国境をこえて 得たもの ～スイスの講習を通して～」と題して、スイスでの講習を通して学ばれた音楽のすばらしさ、そして、言葉によるコミュニケーションの大切さについて、ヨーロッパの地図や当時の写真を見せてもらいながら、貴重なご経験をもとにお話いただきました。

【概要】

ピアノと出会ったのは少し遅い6歳。初めのうちは、コンクールに出場しても良かったり、失敗したりの繰り返しだった。中学生になってから上位に入賞するようになった。その頃、もっと音楽を勉強したいと思うようになり、音楽の勉強をするために東京の高校に進学した。その後、音楽大学に進学し、24歳でふるさとへ帰ってきた。幸い、すぐに音楽教室を開くことができた。

36歳の時、一緒にコンサートをしたフルート奏者の方との出会いがスイスに行くきっかけになった。

ブーフスという町に学校があり、尊敬するアリシア先生とロベルト先生に声楽と伴奏の勉強を教わった。

スイスは、ドイツ語、フランス語、イタリア語、ロマンシュ語の4つの言葉が使われている。もちろん、英語は通じる。私は、ドイツ語ができたのでコミュニケーションがとれ、信頼されることができた。言葉でコミュニケーションがとれたのはとても良かった。

講習会では、初めて見る楽譜をその場で弾くことが求められ、とても大変だった。しかし、最後の終了コンサートでは、スタンディングオベーションで感動のうちに終わることができた。何よりも、日本から準備していった曲を弾いて、尊敬するアリシア先生に歌ってもらったことが一番の喜びだった。

今でも、出会いの奇跡は続いている。出会いを奇跡にするのは、少々怖くても思い切ってぶつかってみること。「私なんて」ではなく、「これくらいいい」ではなく、目標を高くもつことだ。

思い切ってぶつかると、見える景色が変わる。目標を高くもって羽ばたいて欲しい。

